



带状疱疹・緑内障は 早期発見の努力を



湖南市公明党議員団 ● 副田 悦子 議員

問 発症年齢は50歳以上が65・7%を占め、60〜80歳代でピークを迎える带状疱疹については、周知と予防効果の高いワクチンの助成について

答 HPやチラシ等で啓発していきます。ワクチンは予防効果と同時に副反応もあることから任意接種としてご本人が検討した上で接種を受けていただく必要があると考えます。

問 带状疱疹と気づかず放置されて治療するのに日にちがかかる例が多いとのデータがあるが、発疹から72時間内の投薬でずいぶん早期に治療できる疾病であること、治療後に疼痛が長期間残る「带状疱疹後神経痛」に悩まれる方が多いことを特に50歳代以上の方に更に啓発していくべき。

答 集団健康診断の際

にも疾患及び予防のための生活習慣についても話をしていきたいと思えます。

問 自治体でのワクチン助成が昨年より全国で290増加しているが、326となっているが、湖南市の今後は、

答 定期接種となっていないので重篤な副反応が出た際、国の予防接種健康被害救済制度の対象になりません。今後国の動きや近隣市町村の状況を注視してまいりたいと考えます。

問 失明原因1位の「緑内障」は治療法がなく自覚症状もなく、眼底検査でしか発見できない。周知が重要。

答 血糖値の基準値を超えた方に対し勧奨しています。委託業者と調整の上オプション検査として実施することを検討できると考えています。



思いやりのある まちづくりを目指して



会派 きずな ● 大島 正秀 議員

問 小中学校の樹木等の定期点検について

答 市内全校で日常点検とは別に月一度、学校施設全般の安全点検を行っています。点検の中で危険箇所などが発見された場合、樹木だけに限らず、必要に応じて学校と教育委員会が連携して専門業者と相談、知見なども聞きながら対応を行っております。今後も学校施設の管理において、学校と教育委員会の連携強化に努め、日常点検及び定期点検を徹底し、子どもたちが安心して学び、活動できる環境を整えるため、安全を第一に専門業者の協力を得る必要に応じて予算確保に努め取り組んでまいりたいと考えております。

問 第79回国民スポーツ大会・第24回全国障

害者スポーツ大会における障がい者に配慮した施設整備について

答 令和4年度に実施した総合体育館のトイレ改修工事では段差の解消や便器の洋式化、水栓の自動化等のバリアフリー化対応を行いました。今年度の改修工事では体育館の玄関前の床を滑りにくくするシート改修や階段部への手すりの設置により、障がい者に配慮した施設整備を行いました。今後におきましてはロッカールーム等の改修を進め誰もが使いやすい施設として、また障がい者や高齢者などに配慮した整備を進め、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を通じてスポーツを振興していくこととしております。